

| 平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | |
|--|------------------|---|-----------------|---------|--|
| 教科目名 | 測量学実習 | 担当教員 | 伊藤 勉(非常勤) | | |
| 学年学科 | 5年 建築学科 | 前期 | 必修 | 1単位(学修) | |
| 学習・教育目標 | (D-3 計測・制御系)100% | | JABEE 基準1(1)(d) | | |
| 授業の目標と期待される効果： 建設工事の基本となる測量技術の内、測量機器の操作を、実習を通して学習し、測量士資格試験の基本となる技術を修得する。 目標となる項目は、 距離測量における自然誤差・器械誤差への対応 角測量での作業時間の短縮と適格性の確保 トラバース測量での精度向上への工程 水平測量・平板測量の適格性の確保 | | 成績評価の方法： 測量実測データをレポート(30点)による得点率(%)により評価する。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 以下の測量課題で、6割以上の内容に達していること。 距離測量が適格に出来る 角測量が適格に出来る トラバース測量が適格に出来る 水準測量・平板測量が適格に出来る | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 演習なので、自主的な取り組みが必要である。 測量データの集計には情報処理の技術が必要であるので、十分に修得しておくこと。 測量成果の可否は、基本的な操作及び取り扱い方により影響するため、十分習熟し使いこなすことが必要である。 | | | | | |
| 教科書および参考書： 教科書： 測量学(上)(丸安隆和 著 コロナ社) | | | | | |
| 授業の概要と予定：前期 | | 教室外学修 | | ALのレベル | |
| 第 1 回：距離測定(その1) | | 鋼巻尺による温度・定数等の補正 | | C | |
| 第 2 回：距離測定(その2) | | | | C | |
| 第 3 回：角測量の実習(その1) | | 多角形による角測量の角補正 | | C | |
| 第 4 回：角測量の実習(その2) | | | | C | |
| 第 5 回：トラバース測量の実習(その1) | | 閉合トラバース測量の精度 | | C | |
| 第 6 回：トラバース測量の実習(その2) | | | | C | |
| 第 7 回：トラバース測量の実習(その3) | | | | C | |
| 第 8 回：中間試験 | | | | | |
| 第 9 回：平板測量の実習 | | 平板測量による図化 | | C | |
| 第 10 回：水準測量の実習(その1) | | 水準測量による往復測定の精度 | | C | |
| 第 11 回：水準測量の実習(その2) | | | | C | |
| 第 12 回：水準測量の実習(その3) | | | | C | |
| 第 13 回：面積及び体積の測量実習 | | 現地三斜による面積測定 | | C | |
| 第 14 回：写真測量とGPS及び、その他の測量(その1) | | 応用測量の方法 | | C | |
| 期末試験 第 15 回：期末試験の解答の解説など | | | | | |

評価（ループリック）

| 達成度 評価項目 | 理想的な到達 レベルの目安 (優) | 標準的な到達 レベルの目安 (良) | 未到達 レベルの目安 (不可) |
|-------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| | 距離測量における自然誤差・器械誤差への対応が8割程度できること | 距離測量における自然誤差・器械誤差への対応が6割程度できること | 距離測量における自然誤差・器械誤差への対応が6割程度できない |
| | 角測量での作業時間の短縮と適格性の確保が8割程度できること | 角測量での作業時間の短縮と適格性の確保が6割程度できること | 角測量での作業時間の短縮と適格性の確保が6割程度できない |
| | トラバース測量での精度向上への工程が8割程度できること | トラバース測量での精度向上への工程が6割程度できること | トラバース測量での精度向上への工程が6割程度できない |
| | 平測量・平板測量の適格性の確保が8割程度できること | 平測量・平板測量の適格性の確保が6割程度できること | 平測量・平板測量の適格性の確保が6割程度できない |